

**留学先国名** : イタリア

**留学先学校名** : Università del Salento

**留学期間** : 平成 28 年 9 月 24 日 ~ 平成 29 年 9 月 10 日

私は約一年間、イタリア東南部、レッチェにあるサレント大学に留学していた。レッチェは特有の白い石造りの建物が目立つ小さくて美しい街で、近郊には紺碧の海が広がる楽園のようなところだ。こんな素晴らしいところに留学をすることができた私は本当に幸運だ。しかし、留学は決して簡単なことではなく、様々な困難を乗り越えなければならなかった。私は初めの一週間、違う町の友人宅にホームステイをしていたが、大学の手続きと家を探すために単身レッチェに赴いた。そこで私は初めて、一人で全く知らない異国の地で生活することがいかに大変かということ、ここでの文化や社会は思っていた以上に日本のものとは違っているということを実感した。片言のイタリア語で自分がしたいことを必死で説明した。なにもかもわからないことばかりで、ただスーパーで買い物をするだけで緊張していた。その後、恐ろしいホームシックに陥り、とにかく一人で居ることを避けた。

ホームステイを終え、新しい家に引っ越すと状況はさらに悪化した。寂しさで胸が押しつぶされそうであったが、いつもなぜ自分がここに来たのかということをもう一度考えた。自信など毛頭なかった。しかし、「必ず自分が納得できる留学をしてみせる」と何度も肝に銘じた。そして、少しずつ、気の合う友人を見つけるとともに、こういった憂鬱から抜け出すことができた。日々たくさん悩みながらも、楽しいと感じる瞬間が増えていった。

授業は通常のイタリア人学生たちと学ぶ美術史関連の授業と、留学生のためのイタリア語の授業を履修していた。どちらもかなり難しく、何度も諦めそうになった。とにかく授業に集中し、時にはイタリア人の学生たちにも助けてもらった。また話が分からなくなると、聞こえた単語をメモして後から辞書で調べた。また貴重な機会となった美術館見学などにも参加した。勉強で一番大変だったのはテストである。テストの1ヶ月前ごろから本格的に勉強を始めるが、ただ覚えればよい訳ではない。イタリアの試験のほとんどは口頭試験であり、自ら説明しなくてはならない。何から始めたらいいのかも、何が正しいのかもわからなかったが、関連する本を見つけ、自分なりにできることを必死でやった。また図書館や修道院など、お気に入りの勉強場所を見つけたり、休憩に友達とコーヒーを飲んだのもとても良い思い出だ。勉強を通じて、もちろんイタリア語や専門知識についてたくさん学ぶことができた。それだけでなく、何もわからない絶望的な状態から、ある一点を目指して繰り返すこと、今自分ができるものを見つけ出すことがいかに大切であるかを学ぶことができた。全てのことに慣れるのには半年程かかった。二学期が始まる頃になると、少し余裕が出てきて、やりたいことにたくさん挑戦するようになった。新しい留学生たちが到着し、授業も新しくなるため、それまであまり行かなかった社会的な場所にもたくさん行くことにした。実際に、二学期からは友達が何よりも大切になり、共にたくさんの時間を過ごすことになった。一緒にコーヒーを飲んだり、映画を観たり、海に行ったりすることが、特別なことをしていなくても一生輝き続ける思い出となった。

留学後半は、いかにして良い留学生活の終わりを迎えるかということについて考えた。精神的余裕が生まれ、何をすることもでき、またしないこともできた。残された時間の中で、ここでしかできないことは何かと考えた。具体的には、なるべく外に行くことにして、いつも同じスーパーで買うものをたまたま見つけた八百屋で買ったり、勉強の合間に散歩したり、新しい勉強場所を探しに行った。また、友達と過ごす時間と勉強する時間のバランスをうまく取れるよう心がけた。これが少し難しかったが、お気に入りの勉強できる場所を見つけ、そこに通うことで勉強する時間を確保することができた。

私がこの留学を通じて学んだことは計り知れない。本当に言葉にならないぐらいたくさんのことを学んだ。毎日、何かが刺激となり、たくさんを感じていた。全く違う文化の中、新しい視点で物事を見ることで、今までどんなにがんばっても理解できなかったことが理解できるようになった。自分の中で一番自信となり、また驚いた発見は、自分次第で何でも変えられるということだ。正直に言って、留学のはじまりは悪夢のようだった。日本に居たときより悲観的で、いつも不安であった。しかし、いつの間にか毎日を楽しんでいることに気が付き、最後にはこれまでの人生で一番明るく、ポジティブな自分となった。また思春期でたくさんのことを経験し、悩み、いつの間にか変わってしまっていた本来の自分に、この異国の地で再び会えた気がした。一年という短い時間で、考え方も見える景色もこんなに変わったことが信じられない。0の状態から、少しずつ、一歩ずつ自分に今できることを考え実行し、また自分に必要なもの、必要でないものを見分けて進んできた結果、本来の自分を超越することができたのは、これからの人生にとって自信とヒントになるに違いない。これからもこの経験を忘れず、自分のやりたいことに積極的に挑戦していきたい。

これから留学をする方々も、留学先でさまざまな困難を経験するかもしれない。そういう時は、自分のことをよく見て、自身を信じてみてほしい。そうすれば今の自分に必要なことが見えてくるはずだ。どんなに悲しくても寂しくても、きっとそれは後に糧となる。周りの楽しそうな人と自分を比べたくなるが、そんなことをする必要はない。自分らしい留学とは何かを考えてほしい。結果がすぐに出なくとも、努力を続けていればふとした瞬間に思いがけない発見がある。また、社交的な場に積極的に行くことも大切だと感じた。そこでは人脈が広がるだけでなく、たくさん学ぶことがある。初めて会う人とのコミュニケーションの仕方や自分にとって良い影響を与えてくれる人と逆に悪い影響を与える人の見分け方、人との付き合い方など、いつ、どこで何をするにも生かせる多くのことを学ぶことができる。特に留学中はパーティーなどたくさんイベントがあるので、ぜひこのチャンスを利用してほしい。